

**11月20日の「家族の日」に合わせ
テレワーク×スーパーフレックスの働き方と、家族との時間に関する調査結果発表
～7割以上が「家族との時間が増えた」、9割が「働きやすくなった」と回答～**

株式会社エムティーアイ(以下、「当社」)は、新型コロナウイルス感染症の流行におけるBCP対応を機に、2020年10月より、全従業員を対象にテレワーク制度およびコアタイムのないスーパーフレックス制度を導入しています。

この度、内閣府が制定する「家族の日・家族の週間※」へ賛同するにあたり、これらの制度が従業員とその家族との時間にどのように影響しているかを検証するため、従業員向けの意識調査※1を実施しましたので、その結果を発表します。

本意識調査では、テレワークなどにより9割が働きやすくなったことを、7割以上が家族との時間の増加を実感していることが明らかになるなどポジティブな効果が確認されました。

今後も当社は、多様な働き方を推進し、パフォーマンス発揮やそれによる生産性向上を実現できる職場づくりを整備していきます。

※「家族の日・家族の週間」とは、生命を次代に伝え育んでいくことや、子育てを支える家族と地域の大切さについて、内閣府が国民一人一人に呼び掛けている取組みで、11月の第3日曜日を「家族の日」、さらにその前後1週間を「家族の週間」と定めています。

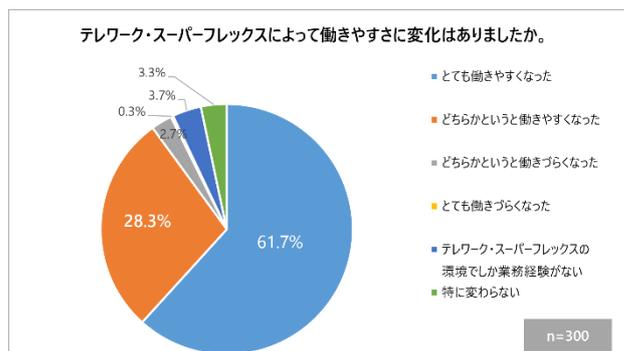
詳しくはこちら: <https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/family/index.html>

◆テレワークなどにより、9割以上が「働きやすくなった」と実感。その理由とは？

初めに、当社の従業員を対象に、テレワーク制度とスーパーフレックス制度の標準化後の働きやすさについてたずねました。「とても働きやすくなった」61.7%、「どちらかという働きやすくなった」28.3%となり、合わせると9割がテレワークやスーパーフレックスによって以前よりも働きやすくなったと感じていることが分かります。

働きやすくなった理由としては、「移動時間が減ったことで業務時間が充実した」86.7%、「家族との生活リズムに合わせた働き方が可能になった」65.2%、「家事や育児・介護などと仕事の両立がしやすくなった」51.1%が上位となりました。時間や場所にとらわれず業務が行えるようになったことで、プライベートの時間との調整がしやすくなり、ワークライフマネジメント※2を実現できる人が増えていると推測されます。

一方で、働きづらくなったと回答した人からは「一緒に働く相手の業務状況が分からずコミュニケーションが取りづらくなった」77.8%、「会社よりも集中力が落ちる」55.6%など、新たな働き方に課題を感じる声もあがりました。



「働きやすくなった」と回答した人にお聞きします。そう感じる理由として当てはまるものを教えてください。(複数回答：上位5つ)

移動時間が減ったことで業務時間が充実した	86.7%
家族との生活リズムに合わせた働き方が可能になった	65.2%
家事や育児・介護などと仕事の両立がしやすくなった	51.1%
精神的な負担・ストレスが軽減した	47.4%
有休や体調不良時の休みを取りやすくなった	30.7%

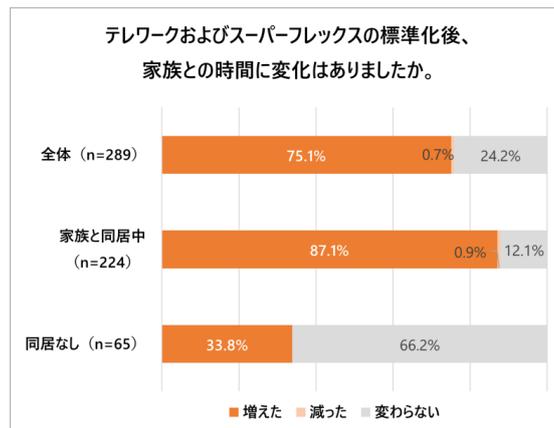
n=270

◆新たな働き方により、家族と同居する9割近くが「家族との時間が増えた」と回答。

「会話」や「一緒に食事」などのコミュニケーションが増加！

家族との時間の変化については、全体で「増えた」75.1%、「減った」0.7%、「変わらない」24.2%となりました。家族と同居中と回答した人に絞ると、「増えた」が9割近い結果となり、特に、家族との時間が増加している人が多いことが分かります。

一方で、同居家族がいない人の回答は「変わらない」66.2%が最も多くなり、「増えた」が33.8%でした。コロナ禍によって外出自粛が呼びかけられたこともあり、離れて暮らす家族に会いに行くのは難しいことが想像されますが、自由回答では業務の合間などに電話やメールがしやすくなったという声も複数あがりました。



また、家族とのどのような時間が増えたかの質問には「平日と一緒に話す時間」82.5%の回答が最多となり、「平日と一緒に食事をする時間」77.4%が続きました。自由回答では、働き方が変わったことを機に食事を作るようになったという男性社員もおり、家事に費やせる時間が増えるといった効果もあるようです。また、家族と同居していないケースでも、業務時間を調整して離れて暮らす祖父母の介護を手伝いに行く、実家で一時的にテレワークを実施するなど、新たに一緒に過ごす時間を設けられているとの声が寄せられました。

どのような家族との時間や機会が増えましたか。 当てはまるものを全て教えてください。（複数回答：上位5つ）	
平日と一緒に話す時間	82.5%
平日と一緒に食事をする時間	77.4%
平日の遊びや触れ合いの時間	36.9%
平日に同居家族と一緒に家事や育児、介護をする時間	43.3%
平日と一緒に出かける時間	19.8%
n=217	

家族との時間が増えたことで嬉しかったエピソードが多く寄せられたため、その一部を紹介します。

《家族との時間が増えたことで嬉しかったエピソード 自由回答一部抜粋》

★夫婦のエピソード

- └家事・育児の分担をより分散できるようになったので、夫婦お互いのストレスも緩和され、笑顔が増えた。(40代/男性)
- └夫と平日話す機会が増えた。昼食を一緒に取れることがあり雑談や子供の話などをできるようになった。(40代/女性)

★子どもとのエピソード

- └子どもの習い事などのサポートがしやすくなり、子供がやりたいことに打ち込めていると感じる。(40代/女性)
- └テレワークによって、子どもが保育園に入る前の期間に自宅にすることができ、立ち上がる瞬間など、日々の成長の時間を近くで共有することができた。(30代/男性)

★親とのエピソード

- └両親の健康状態の変化に気づくようになり、すぐに対応ができる。実際に元気になったような気がする。(30代/男性)
- └(一時帰国時)実家である海外の家で両親と一緒にほぼ2カ月過ごせてとても嬉しかったです。*3(30代/女性)

◆株式会社エムティーアイ コーポレート・サポート本部 人事総務・広報統括部 人事部 岩淵 由希部長のコメント

本調査結果から、テレワーク制度およびスーパーフレックス制度が、多くの社員にとって、働きやすさの向上や家族との時間の充実につながっていることが改めて分かりました。家庭内で笑顔が増えたなどの声もあり、このような効果を喜ばしく受け止めている一方で、働きづらくなったという声には、課題改善の必要があると感じております。

今後は、本調査結果をもとに、改めてこれらの制度の活用方法やその意義について検討するとともに、全従業員がライフとワークを両立させることができ、その時の自身の状況に合わせてキャリアを選択していける会社を目指していきます。

また今年も、子どもを家族が育み、家族を地域社会が支えることの大切さについて理解を深める「家族の日・家族の週間」への賛同の一環として、家族の週間にあたる11月13日(日)から26日(土)を全社的に有給休暇取得推奨期間に設定しています。今後も、仕事も生活もより充実したものとなるよう従業員をサポートするとともに、健康で生き生きと働くことのできる職場づくりを推進します。

尚、今回の調査結果の詳細は、別紙「参考資料」にてご確認いただけます。

※1 調査実施時期:2022年10月11日(火)~10月17日(月) 調査対象:当社の従業員のうち300名

※2 仕事(Work)と私生活(Life)を適切にマネジメントすることで、どちらも充実させていくという考え方

※3 一時帰国時のテレワークは、外国籍従業員のみが対象です。

報道関係の方からのお問い合わせ先

株式会社エムティーアイ 広報室

TEL:03-5333-6755 FAX:03-3320-0189

E-mail:mtipr@mti.co.jp URL:<https://www.mti.co.jp/>

《参考資料》

テレワーク制度、およびスーパーフレックス制度による家族との時間の変化についての意識調査

調査実施時期:2022年10月11日(火)~10月17日(月)

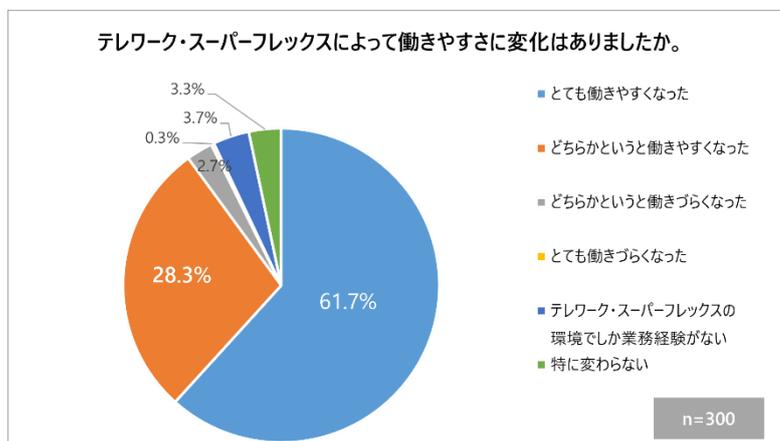
調査対象:株式会社エムティーアイの従業員のうち300名

◆テレワーク・スーパーフレックス導入後、9割が「働きやすくなった」と回答。

Q. テレワーク・スーパーフレックスによって、働きやすさに変化はありましたか。

現行の制度が導入される以前から当社に勤務していた従業員を対象に、テレワーク制度およびスーパーフレックス制度によって働きやすさが変化したかどうかをたずねました。結果は、「とても働きやすくなった」61.7%、「どちらかという働きやすくなった」28.3%と、合計すると90.0%が働きやすくなったと回答しています。

また、働きづらくなったという割合は、「どちらかという働きづらくなった」2.7%、「とても働きづらくなった」0.3%を合計すると3.0%となりました。



◆新たな働き方が、ワークライフマネジメントの意識へつながる！？

働きやすさの最大の要因は、移動時間がなくなることで業務時間の充実。

Q. そう感じる理由として当てはまるものを教えてください。(複数回答可)

働きやすくなったと感じる理由として最も多い回答は「移動時間が減ったことで業務時間が充実した」86.7%となり、次いで「家族との生活リズムに合わせた働き方が可能になった」65.2%、「家事や育児・介護などと仕事の両立がしやすくなった」51.1%となりました。

仕事において、時間や場所にとらわれなくなった分、業務時間とプライベートの時間をうまく調整し、ワークライフマネジメントがしやすくなった人が増えていると推測されます。

一方で、働きづらくなったと回答した人の理由としては「一緒に働く相手の業務状況が分からずコミュニケーションが取りづらくなった」77.8%が最も多くなりました。テレワーク化により、対面で働いていた時にはあった雑談などが減ったことなどが影響しているのかもしれませんが。次いで、「会社よりも集中力が落ちる」55.6%があげられ、自宅だとなかなか集中が続かないケースもあるようです。

「働きやすくなった」と回答した人にお聞きします。 そう感じる理由として当てはまるものを教えてください。(複数回答)	
移動時間が減ったことで業務時間が充実した	86.7%
家族との生活リズムに合わせた働き方が可能になった	65.2%
家事や育児・介護などと仕事の両立がしやすくなった	51.1%
精神的な負担・ストレスが軽減した	47.4%
有休や体調不良時の休みを取りやすくなった	30.7%
会社よりも集中力が高まった	29.6%
仕事とプライベートを切り替えやすくなった	20.4%
チャットなどのテキストコミュニケーションが増えて抜け漏れが減った	19.3%
雑談などが減って効率的に働けるようになった	18.9%
対面だとマスクで表情が見えないが、オンライン会議だと表情も見えてコミュニケーションが取りやすい	9.6%
その他	7.4%

n=270

「働きづらくなった」と回答した人にお聞きします。 そう感じる理由として当てはまるものを教えてください。(複数回答:上位5つ)	
一緒に働く相手の業務状況が分からずコミュニケーションが取りづらくなった	77.8%
会社よりも集中力が落ちる	55.6%
仕事とプライベートが切り分けにくくなった	44.4%
雑談やプレストがしづらくなりチーム力が低下した	44.4%
育児や介護、ペットの世話などの対応で業務が中断されることが増えた	22.2%

n=9

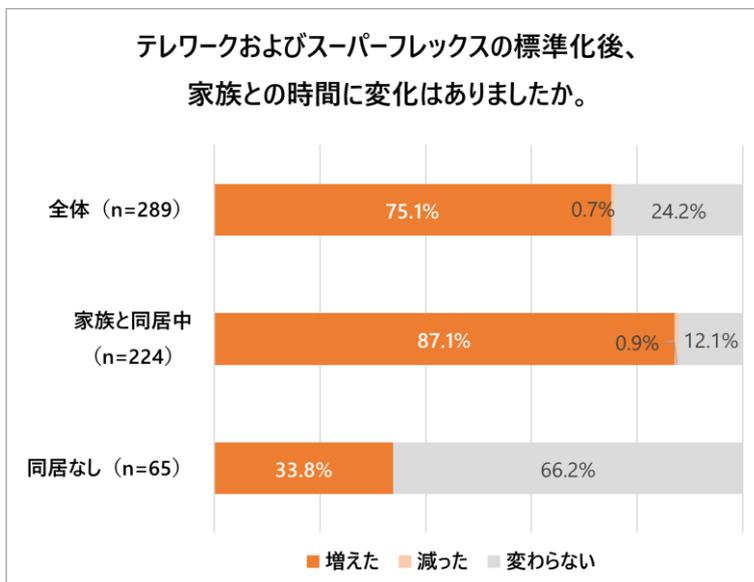
◆テレワーク・スーパーフレックスによって、75%以上が「家族との時間が増えた」と回答。

同居家族の有無による違いは？

Q. テレワークおよびスーパーフレックスの標準化後、家族との時間（一緒に過ごす時間や電話などのコミュニケーションの機会）に変化はありましたか。

テレワークなどの制度標準化後の家族との時間の変化については、全体で「増えた」75.1%、「減った」0.7%、「変わらない」24.2%となりました。家族と同居中と回答した人に絞ると、「増えた」が9割近い結果となり、特に家族との時間が増加している人が多いことが分かります。

一方で、同居家族がいない人の回答は「変わらない」66.2%が最も多くなり、「増えた」が33.8%でした。コロナ禍によって外出の自粛が呼びかけられたこともあり、離れて暮らす家族に会いに行くことが難しいことが想像されますが、自由回答では業務の合間などに電話やメールがしやすくなったという声も目立ちました。



◆一緒に過ごす時間が増えた家族として最も多いのは「配偶者・パートナー」。

7割以上が「一緒に話す時間」や「一緒に食事をする時間」が増加！

Q. 家族と過ごす時間が増えたと回答した人にお聞きします。一緒に過ごす時間が増えた家族として当てはまる人を教えてください。（複数回答可）

今回、婚姻状況や子どもの有無などの世帯構成は聞いていませんが、家族との時間が増えたと回答した人へ、誰と一緒に過ごす時間が増えたかをたずねると、「配偶者・パートナー」77.9%、「子ども」52.1%の順で回答が多い結果となりました。

配偶者・パートナー	77.9%
子ども	52.1%
親	27.2%
兄弟	8.3%
祖父母	5.1%
孫	0.0%
その他親族	1.8%
n=217	

Q. どのような家族との時間や機会が増えましたか。当てはまるものを全て教えてください。（複数回答可）

具体的にどのような時間が増えたかという質問には「平日と一緒に話す時間」82.5%が最多で、「平日と一緒に食事をする時間」77.4%、「平日に同居家族と一緒に家事や育児、介護をする時間」43.3%が続きました。テレワーク制度やスーパーフレックス制度の標準化後、会話や食事だけでなく、様々なことに平日から家族で取り組めるようになったという変化がうかがえます。

自由回答では、夫婦で共通の趣味を持てるようになった、一緒に過ごす時間が増えたことで夫婦仲が良かったという声が印象的でした。また、新たな働き方によって子どもの送迎ができるようになったという回答も目立ち、子どもの日々の成長を見届けられる機会が増え、喜びを感じている人も多いようです。親との時間に関しては、業務時間の合間に健康状態にこまめに注意を払えるようになったり、実家でテレワークをするなど、様々な家族との時間が増加していることが分かります。

平日と一緒に話す時間	82.5%
平日と一緒に食事をする時間	77.4%
平日の遊びや触れ合いの時間	36.9%
平日に同居家族と一緒に家事や育児、介護をする時間	43.3%
平日と一緒に出かける時間	19.8%
電話やテレビ電話で通話する時間	11.1%
メールなどでのやり取りの機会	3.2%
その他	2.8%
n=217	

◆「息子の受験を乗り切れた」という声も！テレワークなどにより、各家庭に起こった変化とは？

≪新しい働き方により家族との時間が増えて嬉しかったエピソード 自由回答より抜粋≫

最後に、新しい働き方によって家族との時間が増えた社員からのエピソードを紹介します。

実家が遠方なので今まで有休を取って土日含め5日ではしか帰省の機会がありませんでしたが、実家でもテレワークで仕事を出来るようになり3週間など長期間でも帰省して家族との時間を過ごせるようになり、親兄弟とコミュニケーションが取れ良好な関係となっています。また親に関しては自分の仕事も近くで見れることで安心感などもあるかと思えます。フレックスだと、調整出来れば家族・パートナーと時間をあわせて平日でも一緒に過ごせる時間が増えたので、リフレッシュできる機会も増えていきます。	20代/女性
テレワークによって実家の近くに引っ越すことができ、子ども達と3世代で過ごす時間が増えたこと。旦那が子育てに参加しやすくなったこと。	20代/女性
地元で暮らしている両親と電話する機会が増えました。コロナ禍で帰省がしにくいというのもあるかと思いますが、昼休憩や夜のちょっとした隙間時間に気軽に電話がかけられるようになり、近況報告を顔を見てできるようになったのが良かったです。また、同居している主人と夕飯を一緒に食べる機会が増えました。お互いテレワークをしているときは、〇時までには終わらせて夕飯を食べよう、といったことができ、夕飯が寂しくなくなりました。	30代/女性
子供の送迎調整がしやすくなって、パートナーとの関係性がよりよくなった。また子どもの習い事などのサポートがしやすくなり、子どもがやりたいことに打ち込んでいると感じる。	40代/女性
毎週1日は、私が夕食(カレーライス)を、家族のために作ることになり、父も料理ができるんだ！と、子供たちの新しい発見につながっています！？	40代/男性
受験に関することは私の担当となり、息子と二人三脚で受験を乗り切ることができた。	50代/男性
オンラインツールの活用が進み兄妹や甥姪と話しやすくなり、その機会も増えた。	50代/男性
夕飯のメニューを一緒に考える機会が増え、野菜や肉の市場価格を理解するようになった。	60代/男性